

書 評

免疫 からだを護る不思議なしくみ 第5版 ▶ 矢田純一 著

免疫 からだを護る不思議なしくみ 第5版／矢田純一著／東京化学同人 2015/A5判 192ページ 1,800円＋税

本書は免疫初心者に最適な学習書である。「免疫のしくみを最新の情報も踏まえてしっかりと、しかもわかりやすく読者に伝えること」をコンセプトとし、「擬人化したイラストも多用して」「文字どおり絵解き」し、「これから本格的に免疫を学ぼうとしている」読者が「その後の学習が容易になる」ことを目指したものである。専門書にしては珍しく“である”調ではなく“ですます”調で語りかけるように書かれていることも特徴的と思われる。

筆者は薬学・生化学分野で分子構造を専攻しているが、当然免疫分野の知識が必要となる。そのたびに本書を含め、矢田先生のお書きになった解説のお世話になってきた。分子構造に関する海外の文献などを読んでいて免疫関連の言葉が出てくると、その先が読めなくなる。その際医学図書館の大辞典を引くよりも、矢田先生の日本語解説で解決してしまうことが多いのである。

本書は解説だけでなくイラストも矢田先生ご自身が描かれており（目次裏にあるユーモラスな似顔絵をご覧いただきたい）、その免疫細胞の挿絵は、正式・略式のローマ字名、漢字カタカナ名よりも頭に残るのである。

今回、第4版（2007）から第5版（2015）に加筆改訂された主な内容を列記してみよう。

- ・「2・5獲得免疫のリンパ球と自然免疫のリンパ球」という新しい節が設けられ、特にNK細胞、NKレセプ

ター、NKJ細胞について詳説されている（2章）。

- ・樹状細胞、マクロファージが作るさまざまなタンパク質活性が、抗原+T細胞、抗原+B細胞の作用を助ける話が加わる（2章）。
- ・T細胞非依存性抗原について詳説され、最近有名なToll様レセプターも紹介されている（5章）。
- ・図5・14に好中球の反応を導くTh17細胞がつけ加わる（5章）。
- ・「5・5自然リンパ球」が加わり抗原レセプターを持たないリンパ球の作用が述べられている（5章）。
- ・超粘膜上に共生している細菌の種類によって発達するT細胞の記述が加わる（6章）。
- ・真菌（カンジダ等）の防御、原虫（マラリア等）の防御はT細胞の補助作用によるという記述が加わる（6章）。
- ・「8・6細胞内での活性化の制御」が加わる（8章）。
- ・「Toll仮説」という一項が加わる（13章）。

なお、13章の二節「13・2臓器特異的自己免疫病」、「13・3全身性自己免疫病」には新しい記載が多くある。

最後に、紹介文には相応しくない発言となるが、レクチンについて、そしてその背後の糖鎖の免疫についても、矢田先生がお書き加えくたされれば、大層嬉しいと思う。第六版あたりだろうか？ 脱線ついでに、免疫細胞が必要な時、必要な場所に馳せ参ずる機構についてはいかがでしょうか？

（坪井正道 東京大学名誉教授）